

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2018年7月11日

報告書名：平成30年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

平成30年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

2018年7月11日

事業名	ナンガハル県帰還民への緊急越冬支援物資配布 Emergency Winterization Assistance for the Returnees in Nangarhar		5 lines
事業対象地	アフガニスタン ナンガハル州		
事業期間	事業期間：2017年12月30日～2018年3月29日		
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム		
総支出・返還金	総支出：28,087,933円（返還額：1,755,703円）		
プロジェクト目標および、その達成度	ナンガハル県 Behsood 郡、Kama 郡、Haska Mina 郡において、支援を受けていない帰還民および脆弱層を抱えるホストコミュニティ合計610世帯に対し、12月下旬から2月の厳冬に対応できるよう、OCHAと UNHCR が主導するクラスターで調整を経た越冬支援物資を配布する。本事業は、過去に越冬支援を受けていない非登録帰還民および脆弱層を抱えるホストコミュニティに越冬支援物資を配布することを目的とする。 ナンガハル県の非登録帰還難民550世帯、ホストコミュニティ60世帯、合計610世帯、約4,270名に越冬支援物資を配布した。		～10 line
実施内容 概要	物資配布 ナンガハル県 Behsood 郡、Kama 郡、Haska Mina 郡に居住している、非登録帰還難民550世帯、ホストコミュニティ60世帯、合計610世帯、約4,270名に1世帯あたり、クラスターで調整された越冬支援パッケージを配布した。また、子どもを6人以上抱える70世帯に対し、追加支援として越冬支援パッケージのうち衣類一式を追加配布した。	受益者数 約4,270人	2/3 page
成果	物資配布 <u>「約4,270名に対しクラスターで定められた越冬支援物資を配布し、彼らの生活環境を改善した。」</u> 合計610世帯、約4,270名に1世帯あたり、クラスターで調整された越冬支援パッケージ（毛布6枚、プラスチックシート2枚、プラスチックバケツ2個、家庭用ガス1本、女性用ショール2枚、男性用スカーフ2枚、子ども用セーター2着、配布用キットバック1個）を配布した。また、子どもを6人以上抱える70世帯に対し、追加支援として越冬支援パッケージのうち衣類一式を追加配布した。 配布後のインタビュー調査の結果、対象世帯の100%が配布物資を売		～1page

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2018年7月11日

報告書名：平成30年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

	らずに使用していた。また、調査した世帯の99%が配布物資の内容に「満足している」と回答した。	
課題と対応策	<p>活動に関して、以下のような課題が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none">・モニタリング方法とその内容について改善する必要がある。今回より電話インタビューでのモニタリングを導入したが、直接個別訪問を行う場合と得られる情報が異なるため、それぞれの方法によって質問内容の設定を再検討する必要がある。・OCHAによると1世帯あたりの平均世帯人数は7.0人（2016年度は6.8人）であったが、配布後のモニタリングによると7.76人（中央値8人）であった。このことから充足数が低い傾向となった。・実際の対象世帯の平均人数が計画時のものより多いため、追加配布支援の改善である。計画時に平均世帯構成人数の多い世帯数を把握することは難しいが、ある程度想定された中で事業計画を行い、業務手順を整備するなどして、効率的に対応が行えるよう、事業体制を整備すべきである。	1/2
教訓・提言	教訓としては、新しいモニタリング手法を導入したため、従来の個別訪問との差異をつける必要がある。次に、クラスターで設定されている世帯構成人数が実態と異なるため、支援対象者の分析方法を改めて検討する必要がある。最後に、追加配布は効果的であるため、柔軟な対応が行えるよう計画時から組み入れることである。	